

こころ21だより

会報 第30号

2016年(平成28年)3月31日発行

事務局

〒730-0856

広島市中区河原町7-2 徒然社内

TEL 082-292-4507 (金子)

FAX 082-292-4508

E-mail: kokoro21@tsure20.co.jp

NPO法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21

発行責任者/理事長 岸房康行

設立10周年に向けて理事会開催

当法人は今年の8月で設立10周年を迎えます。記念事業の開催などの取り組みについて協議するため、3月9日(水)午後6時半より、広島市中区袋町の合人社ウエンディひと・まちプラザで理事会を開催し意見交換を行いました。

出席者

赤羽克秀、今中 亘、金子敏郎、岸房康行、木時寿子、窪田晴美、住田和子、高東博視、坪井 宏、野坂忠守、濱口豊彦、藤本黎時、森保洋之(13人 敬称略)

会議で出された意見の一部を紹介します。

- ・地道な活動を続けてきたが、わがNPOのファン(会員)を今後どうやって増やしていくかを考える必要がある。そのためにはコンセプトを明確にし、ターゲットを絞る、アンケート調査で問題点を抽出、明確にし、それをこれからの活動に生かすことが大切。
- ・NPOの活動をいかにPRしていくかがこれからの課題。それが会員増、資金集めにつながってくる。
- ・「心豊かな家庭環境づくり」がわれわれの活動テーマだが、世間が注目している問題を取り上げ、実績をつくらないとPR効果がない。テーマを何に絞って活動するか考えよう。
- ・社会的な関心のあるテーマと取り組んで、NPOの存在感をアピールする。
- ・10周年を記念してシンポジウムを開催(出席者の多数が賛同)

具体的に出されたテーマ

①子育て支援

幼児期の家庭教育、育児休業の実態、行政的なおいていない、家庭の悩みを前面に出したもので組み立てたシンポジウム。

②食と農の問題

食育をメインにしたシンポジウム。幼児期の家庭教育とも関連がある。地産地消、スローフードとファストフードなど、幅広くさまざまな問題があるので、テーマを絞ることが必要。

会議で出された意見を参考にして事務局でシンポジウムの素案を作成することにしました。皆さんの意見をお寄せください(5月20日(金)締め切り)。

第10回 総会のご案内

●日時/6月15日(水)

総会 午後6時 懇親会 午後6時30分

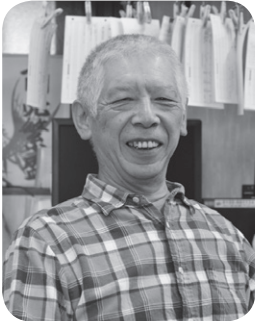
●場所/ひろしま国際ホテル1階 中華レストラン「東風」

広島市中区立町3-13 ☎082-240-0558

ご案内: 総会終了後、当法人の事業の一つである「こども夢コンサート」に協力していただいているエリザベト音楽大学の、折河宏治さんによるミニコンサートを開催します。ご期待ください。

「たくましい子どもたちを育てる」きっかけに!!

山野 進



私と子ども会との関わりは、現在 38 歳になる長女が小学校 1 年生のとき、地域の子ども会に入った時からです。

4 月初めの総会に出席するため、妻は幼稚園に上がる前の長男を私に預け、午後 9 時過ぎに帰宅。「なにしとんか…」ちょっと怒った私に、「じゃあ自分で行ってください」ってことがキッカケで私が子ども会デビュー。

町内会の単位子ども会の会長から始まり、学区役員 10 年ほどで現役終了。後は広島市教育委員会派遣の、中区子ども会指導員として約 20 年間活動中です。中区では最古参になってもバリバリと、50 人から 100 人のキャンプ指導に少なくとも年 4 回は参加しています。

かつてはキャンプといえば、飯ごうでご飯を炊くのが当たり前でしたが、最近は飯ごうを見ることも少なくなりました。子どもたちは自分で火をつけることもできなくなっています。

私が舟入学区子ども会指導員として活動していた平成 19 年、現役会長や役員を巻き込み、子どもたちが自分でつくる「カレーづくり大会」を始めました。運営には、子ども会活動を通じて 20 年来のつながりがある NPO 法人の金子敏郎事務局長に協力をお願いしました。金子さんは 10 年前にそういう活動を実施されていたからです。初回は約 100 人の子どもが舟入小学校の校庭に集合。間伐材の杉の丸太をのこぎりで短く切り、おので割ってまき作り。

まき割りは危険を伴うので最初は付きっきりで教えていましたが、9 年も続けていると、1 年生から参加している子どもは高学年になったらもうベテラン。最近では多くの保護者の協力もあり、けがをする子どももいなくなりました。

ご飯炊きは飯ごうを鉄筋で作った土台につるし、水加減、火加減を見ながら。初めて食べるおこげもまたおいしい。同じ材料で作っても班ごとに違う味が楽しい。

どうしてもお父さんやお母さんの中には、手を出しすぎる方が毎年います。その方には武田鉄矢の受け売り、「『親』をしましよ。木の上に立って辛抱強く見てやる」って、言うのが私の役目。そして、「一緒にたくましい子どもを育てましょ。今日はそのきっかけにしましよ」と。

小学校の校庭で朝、子どもたちが丸太から作ったまきで炊いた、おいしいカレーライスが食べられるってすごいじゃないですか。「今度、家でも子どもと作ってみます」といわれると、私は心の中で思わず「ガッツポーズ」。

私たちの目指す「心豊かな家庭環境づくり」のきっかけはカレーづくりから。

(NPO 法人ころ 21 会員)
(株式会社アロンジェ 代表取締役)

*山野さんは、中区の子ども会指導員の集まりで、舟入学区の活動を紹介しました。そのことが大芝学区(西区)、山本学区(安佐南区)のカレーづくり大会の開催につながりました。

こども夢コンサート — エリザベト音楽大学

東区矢賀幼稚園、あけぼの保育園交流事業

2月16日(火)、エリザベト音楽大学の学生たちが矢賀幼稚園でコンサートを開催。同幼稚園とあけぼの保育園の園児や保護者たち約100人が楽しみました。

学生たち14人はピアノ、トロンボーン、トランペットなどで、モーツァルト作曲の「魔笛」を物語風に仕立てたオリジナルのオペラ「パパゲーノのある一日」、アニメ映画「となりのトトロ」の劇中歌「さんぽ」など7曲を披露。園児たちは曲に合わせて元気よく歌いました。

また、壬生千恵子准教授指導の下、スタッフ7人が素晴らしい舞台を作り上げて、会場の雰囲気盛り上げました。

学生を指導し、出演した折河宏治専任講師(2016年度から准教授)は「幼児期の子どもたちの豊かで柔らかい感性は、クラシック音楽をはじめ、さまざまな世界や価値観にふれることで、さらに伸びるに違いない。私や学生にとっても、子どもの感性とのぶつかり合いは、成長の糧になります」と話していました。

開演と同時に、子どもたちが引き込まれていくのがわかりました。本物でしか味わえない歌声や楽器の音色が心を揺さぶり、まさに感動体験だったと思います。そして、学生の皆さまへのあこがれが、子どもたちのこれからの意欲となり、音楽への道が開いていくかもしれない、貴重な体験でした。

矢賀幼稚園園長 合原 晶子

- ・ 普段触れることのない楽器やオペラの世界に触れ、子どもたちが興味深く聞いたり、見たりしていた。
- ・ 帰園してからも「パパゲーノ」のことを子どもたちが話していた。うまく言葉では表現できなくても、それぞれが心に印象深く残った様子が見られた。
- ・ 子どもが興味を引くような構成がしてあり、演出がよく考えられていた。

あけぼの保育園 保育士



(文/野坂忠守 写真/金子敏郎)

「子どものための音楽プロジェクト」にマツダ財団から活動支援金

青少年の健全育成事業を対象にしたマツダ財団の「市民活動支援」に初めて応募しました。保育園、幼稚園児が本格的な生の演奏を身近に触れる機会をつくり、園児の豊かな情操・人間性を育む。併せて演奏者、園児・保護者・地域住民などが交流し、心豊かな家庭環境づくりを目指すという活動目的が高く評価され、支援金支給が決定しました。贈呈式は4月19日にマツダ株式会社の本社で行われます。



学校現場の出来事！ 校長室召集！

—みんなで考えてみませんか—

昨年の12月に、フェイスブック友達の村上育美さん（NPO会員）のメッセージを読んだ金子敏郎事務局長から、その内容について会報30号で取りあげることできないかと、相談がありました。

ちょうど1年前、村上育美さん（中区江波東）から会報26号へ投稿があり、紹介させていただきました。村上さんは小学校4年生、2年生、未就学児（年長）、3人の子育て真っ最中のお母さんです。

2年生の息子さんは平成25年10月、舟入保育園でこども夢コンサートを経験し、昨年はカレーづくり大会に参加した活発な男の子です。

その息子さんが、昨年12月に校長室デビューをしたことにショックを受け、フェイスブックに投稿しました。その一部を紹介します。

息子が冬休み前に校長室デビューしました。札付きのワルになりましたよ。理由は…私から言わせたら「最近はそのことで校長室に呼ばれるの!？」ってくらいのこと。結局、担任（50歳台の女教師）がお手上げなんだと思うわ。実際、「悩んでいます、お母さん」っていわれたし（笑い）。私はもう悩んでいません。悪いことをしたら叱る！ 善いことをしたら超ほめる！ 抱きしめる！

友達も息子のことが本当に嫌いなら離れていくし、その時に息子も気付くと思う。そうやって、子ども同士が関係を築いてるんだと思うんだけどねえ。担任の考えはちょっと違うみたい。どうして村上君は目立ってしまうんだろうってつぶやいていた（今日の個人面談で）。逆に私が相談された!？（笑い）。

学校はいろんな子がいるし、何かあってからだと責任問題にもなるから小さい芽の間に摘んでいくのかね。何を焦ってるのか知らんけど、8歳の子にどこまで求めてるんだろう。

村上さんに直接お会いして、いきさつを聞きました。

「発端は、女の子がゲームの中で自分が鬼になるのが嫌で泣き始めた。泣き止まないでやかましいから自分のベルトで女の子をたたいた。担任は息子を校長室に連れて行ったが、校長は『たたいたら駄目だよ』といわれただけ。学校は女の子の保護者には連絡もしていないし、その後息子と女の子の関係もこじれてはいない」ということでした。

金子事務局長は、私たちのNPOには教育現場経験者が大勢いらっしゃるの、この程度のことでも子どもを校長室に連れて行くという現場の状況をどう思われるか、担任と児童との関係はどうあるべきか、などについて、ぜひ会員の皆さんの意見を聞きたい、ということでした。

皆さんのご意見を事務局までお寄せください。次号の会報に掲載したいと思います。（野坂 忠守）

訃報

下坊 和幸さん 平成28年1月12日逝去 謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記 今回のフェイスブックからの記事、いかがだったでしょうか。このメッセージが発表されたのは昨年の12月。今年の3月になってネット上のブログで（保育園落ちた 日本死ね）問題が出てきて総理大臣まで巻き込んだ政治問題となりました。また安芸郡府中町の

中学校では生徒と担任の先生との話の延長線上で生徒の自殺といった最悪の事件も発生しました。これらの問題と今回の記事の関連性を感じずにはられません。（現場の問題に適切な対応のできるNPOとなることができればと願ってやみません。）（金子 敏郎）